

政務活動費活動報告（研修）

- (1) 研修名： 第 31 回「北方領土視察」
- (2) 参加者： 滋賀県議会議長 宇賀 武氏を団長に、矢吹安子を含む総勢 30 名
- (3) 日時・場所： 2013 年 10 月 15 日（火）から 10 月 18 日（金）の 4 日間
北海道根室市から納沙布岬、海上から国後島、北海道議会庁訪問

【1. 研修目的】

歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島の北方四島を北方領土と呼びます。北方領土は日本国民が父祖伝来の地として受け継いできたもので、我が国固有の領土であります。しかし、北方四島の返還を旧ソ連及びロシアから求められているのは周知の通りであります。今回その実態を詳細に学ぶべく参加いたしました。

【2. 結果報告】

(1) 内 容

滋賀県と北方領土との歴史をひもとくと、江戸時代後半に北方四島の探検がなされました。

現在、高島市のお寺にお墓がある近藤重蔵が貴重な資料を作成し、幕府に提出しております。また、近江商人のもと、深い関わりがあったことが知られています。

第二次世界大戦前には、四島におおよそ 17000 人の日本人が住んでいました。ところが、終戦直後、ソ連軍によって占領され、ロシアとなった現在も不法占拠の下に置かれています。それゆえ、現在では日本人は、一人も住んでいません。

今回、根室市長をはじめ根室市民の皆様と交流をし、翌日、海路国後島との境界線まで近づいてきました。また、歯舞群島の一つの島に住んでいた元島民の方から、直接体験談を伺うこともできました。最後に北海道議会庁では、根室市を中心に北海道をあげて、一日も早く北方四島の帰属の問題が解決されるように、「返還要求運動推進活動」を強く望んでおられることを伺いました。

(2) 考 察

北方領土問題は、以前から日本の領土だと歴史で学びました。近年、尖閣諸島や竹島問題がクローズアップされ、領土問題について、真剣に、前向きに考えざるを得ない状況になっております。今こそ、この目で学ぶ時期だと考え、視察団に同行させていただきました。

現在、高島市のお寺にお墓がある近藤重蔵は、江戸時代後半に「大日本恵登呂付」の標柱を建て、「辺要分界図考」など貴重な資料を幕府に提出しました。さらに、近江商人が、北海道の漁場開拓などで活躍していました。昔から滋賀と北方領土とは、固い絆があったのです。滋賀からは、はるか遠い北海道ですが、身近な問題として、短い 4 日間の視察ではありましたが、再認識することができました。

我が国固有の領土である北方四島の返還をロシアの実効支配下から平和条約を導くため、道内挙げて活動されていることは、他人ごとではなく、私達自身の問題であるということでもあります。早急に国レベルで解決すべき「北方領土問題」ですが、同時に国民一人一人が歴史を学びメディア等を通して、学び続ける必要があると痛感しました。

ありがとうございました。